

質問日	令和4年12月1日(木)		質問方式	分割方式			
質問順位	4	会派名	浜松市政向上委員会	議席番号	2	氏名	鈴木 恵
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 障害児の親(ケアラー)支援について	<p><テーマ>見えにくい問題にも目を向ける</p> <p>以前に比べると、子育て支援、育児と仕事の両立支援制度は整ってきた。しかし、それらは健常の子供を想定したもので、障害のある子供を持つ親にとっては仕事との両立をしにくい、できないという声を多く聞いてきた。そもそも障害のある子供の親(ケアラー)を対象にした支援が少ないのが現状だ。</p> <p>そこで、障害のある子供を持つ親は具体的にどんなことに困っているのか、どのようなサービスがあれば仕事ができるのかなどについて、ウェブにより独自のアンケート調査を実施し、211名の方から回答があった。その結果を踏まえて、以下伺う。</p> <p>(1) 障害のある子供の親への支援はまだ不十分だと考える。子育て支援でもある障害児の親支援の必要性について、どのように考えるのか伺う。</p> <p>(2) 障害のある子供を育てる親支援の充実について</p> <p>ア 必要と認められれば、障害のある子供の親に対して、はますくヘルパーを拡充できないか。</p> <p>イ 独りで通学が困難な児童・生徒のために、親は毎日送り迎えをしている。そこで、移動を支援するヘルパーの派遣制度を導入できないか。</p> <p>(3) 医療的ケア児とその親支援について</p> <p>医療的ケア児等コーディネーターが設置されたが、その成果と課題、今後の増員について伺う。</p> <p>(4) 障害のある子供の親支援は、複数の課にまたがっていて、大変分かりにくい。支援情報をホームページでライフサイクルごとに提供するようにできないか伺う。</p>						山名副市長
2 ケアラー条例の制定について	<p>ケアラーとは、家族や身近な人に対して、無償で介護、看護、日常生活上の世話等を行う人々のことで、最近では、子供の介護者(ヤングケアラー)への支援が始まったところだ。こうしたケアラーは介護等を行うことにより、様々な身体的、精神的、経済的な負担を強いられ、社会的に孤立し、介護する家族等のために自分自身の生活を犠牲にせざるを得ない状況に置かれることもある。</p> <p>介護者、ケアラーが個人として尊重され、健康で文化的な生活を営むことができるよう、社会全体で支えることを目的としたケアラー条例を制定するつもりは</p>						山名副市長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	ないか伺う。	
3 中学校の制服、校則について	<p>これまで、中学校の制服、校則の見直しを提言してきた。さらに、多様性、経済性に配慮した制服や、意義を適切に説明できる校則が求められている。</p> <p>(1) 金額が高く、多様性に配慮されていない制服は、子供たちや保護者を悩ませている。そこで、市内統一で多様性に配慮した制服を制定し、各学校の制服か、統一された制服のどちらかを選ぶことができる仕組みにできないか伺う。</p> <p>(2) 文部科学省は、本年度小中高校の生徒指導に関する教職員向けの手引書「生徒指導提要」の改訂案をまとめた。特に、校則に関する記述が大幅に変更となった。ホームページでの公開を促すとともに、意義を適切に説明できないものを見直すよう求めている。</p> <p>そこで、教育委員会として、今後どのような取組をしていくのか伺う。</p>	宮崎教育長
4 施設給食での地産地消の推進について	<p>保育園などの施設給食で、地産地消の農産物、オーガニック野菜などを求める声がある。こうした声にどのように応えていくのか伺う。</p>	清水農林水産担当部長
5 さらに脱プラ対策を	<p>(1) 本年、市役所本庁舎の自動販売機からペットボトルがなくなり、ウォーターサーバーが設置された。区役所、協働センターを含む公共施設でも、実施できるようにしないのか伺う。</p> <p>(2) これまで分別され、資源として排出されたペットボトルは、シートや卵パック、繊維などにリサイクルされてきたが、最終的には焼却等によって処分されてきた。「ボトルtoボトルリサイクル」では、ペットボトルをリサイクル前と同じボトルに再利用（水平リサイクル）することにより、限りある資源が繰り返し再利用され、新たな石油資源の使用を削減することができ、CO₂削減効果もある。そこで、本市でもボトルtoボトルリサイクルを導入する考えはないか伺う。</p>	藤田環境部長
6 旧高砂小学校跡地活用と残された課題について	<p>11月補正予算で、旧高砂小学校の解体工事設計業務委託事業が計上されている。</p> <p>(1) 旧高砂小学校については、平成30年5月議会で鈴木副市長から「多様な都市機能との連携のほか、地域事情にも配慮しながら総合的な活用方法を検討する」との答弁があった。それ以降どのような検討がなされてきたのか、また今後どう決定していくのか伺う。</p> <p>(2) 旧高砂小学校跡地の活用に向けては、支援を必要とする子供が増加傾向にあることから、社会的自立に向</p>	<p>田中学校教育部長</p> <p>宮崎教育長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>けた進路先として、これまで市立高等特別支援学校や県立浜松特別支援学校分校の設置などについて県教育委員会や関係団体と共に提案が進められてきた経緯がある。</p> <p>中学校発達支援学級の卒業後の進路先については、県立特別支援学校が狭隘化しているなど、いまだ課題は残されたままであるが、市教育委員会としてどのように考えているのか伺う。</p>	